

# 谷口江里也による現代語訳『枕草子』 第16回

枕草子 第十六回

山には

山には、おぐら山とか、鹿背山とか、このくれ山とか、いりたちの山とか、わすれずの山とか、末の松山などと、昔の歌に歌われていたりもする山もあるけれど、とにかく、いろいろな名前がついていて面白い。

かたさり山なんて、言葉の意味からいえば、遠慮する山といふことになるけれど、山が道を譲つたりするはずもないので、この山を登る時には、道を譲りあつたりするのかしら、などと、いろんなことを考えたりして、とつても面白い。

ほかにも、いっぽはた山とか、かえる山とか、後背山とかいろいろあつて、あさくら山なんて、昔の人のことなんてもう知らないわ、という有名なお歌に歌われていたりして、そんなことを思い出すのも面白いし、おおつれ山なんていうのも、臨時のお祭りの時のおおぜいの舞人なんかを思い出したりして面白い。

三輪山も、手向山も、待ちかね山も、たまさか山も、耳なし山も、みんなみんな面白い。